

平方北小学校再編に係る説明会（地域住民向け）

日 時	令和 8 年 7 月 2 5 日（土）13：30～15：00
場 所	平方北小学校体育館
参加人数	1 9 人
意見・要望等	
参 加 者 (小敷谷東部住民)	私こういうところに初めて参加しております。小敷谷東部にいます。子供が 4 人おりまして 4 人ともこの卒業生です。中身の質問ではないんですけども、この資料についてちょっと確認をしたいわけでありまして、現役保護者と未就学児の保護者に対する説明会が 7 月 12 日、14 日に開かれたと書いてありますけども、これそれぞれ何人ぐらいの方が参加されたのかちょっと教えていただきたいです。
司 会	12 日と 14 日それぞれの人数ですね。お願いします。
新しい学校 づくり推進 室長	7 月 12 日は 18 名、7 月 14 日が 8 名、あわせまして 26 名の方がご参加いただいております。
参 加 者 (上野住民)	子供 3 人いて、うち 1 人はこの学校に通っておりました。途中で引っ越ししましたんでね。結局この説明会というのは、なんかもう再編検討協議会というもので平方北小はなくせる。それを前提のもとに何か説明をしてるっていう感じがしてならないんですけども、私は学校をなくすことについては、様々なデメリットがあるので強く反対です。 私が平方北小をなくすることに、反対する理由は主に 3 つです。1 つはですね、やっぱり資料にもあったように通学環境と児童生徒の影響の負担が増えるっていうことをね、すごく心配しています。通学距離が長くなることで、こういう気候ですから、大変な体力の低下だとか、健康の問題とか、また放課後の自由な時間も制限されると思うし、家庭学習の時間も減少する恐れがあるところというふうに考えます。安全性への懸念、これも資料にありましたけれども、新たな通学路で交通事故のリスクだとか、より遠方に通うためにね、悪天候時、猛暑日の酷暑日のダメージが懸念されます。さらに資料の中に通学のためのスクールバスですか、これを検討するなんて書いてありましたけれども、これは別途検討

	するとありましたけれども、これ導入する場合はね、結局やっぱりバス会社の調整とか、運行管理費用の確保だとかね、停留所までの送り迎えとか、結局保護者や教員の負担も増えるんじゃないかなって思うんですよ。それが1点目です。 それから2点目は、地域のコミュニティへの影響がこれすごく大きいと思うんです。今回の再編検討協議会の結果の概要を見ると、結局国はこういうふうに言ってます。学校の規模はこれが適正だと。従って、それに基づいてこのようにしたいと、こういうふうに言ってるんですけども、地域のコミュニティへの影響っていうのはね、一切出てこないんですよ。これが大きいと思います。学校はね地域の中心の存在だというふうに思います。運動会だとか、災害時の避難場所だとか、それから住民同士ですね、交流の拠点になって、そういうコミュニティの核としてね、学校というのは機能してきたと思うんですよ。学校がなくなること、地域の結束が弱まる可能性だってないとは言えないと思います。それから、学校がなくなるということで、定住人口の減少も懸念されます。まち作りがやっぱり狂ってくると思うんです。子育て世代が学校の近い地域へ転居してしまう。この地域に引っ越してくることを回避する、敬遠する。そういうね、地域の過疎化を衰退に拍車をかけるんじゃないかと。そういう要因にもなるというふうに私は思います。これが2点目です。 3点目。平方北小廃校にした場合に、校舎の活用問題どうするのか。民間に売り飛ばすのか。災害時の避難場所はどうなるのか。本当に心配です。長男が通ってた頃は、この平方北小学校には学童保育はなかったです。うちも共働きですから、学童に預けようと思ったら、平方学童保育所まで歩いて放課後は行っていました。しかし、今日の皆さんや地域の皆さんのご尽力で、平方北小に新たに学童ができました。本当に良かったというふうに思います。せっかく平方北小に学童保育作ったのにこれもなくしてしまうのか。平方北小がなくなれば当然そうなりますよね。ですから学校の規模を適正化するっていう名のもとにですね、小規模な学校を廃校にしようっていうのは、やっぱり国はこういうふうに言ってますっていうガイドラインが示されましたけど、公共施設を縮小させるっていうね、国の施策にやっぱり政策、根っこがあるんじゃないかなというふうに思います市役所にとってみれば、市役所の仕事ってのはやっぱり住民の福祉を仕事する地方自治体
--	---

ですから当然だと思うんですけども、そういう点から考えたらこれはね、本末転倒じゃないかと私は思います。数年前になりますけれども、平方小学校の統廃合が検討されて住民説明会が開かれました。私も行きました。反対意見が圧倒的でした。これ以来、市は説明会そのものを開かなくなってしまいました。ようやく今日この場が設けられたわけですけども、結局、再編検討協議会なるものの、その結論が説明されただけで、様々な意見を、広範な人たちに意見を求めるっていう場ではないというふうに思います。市民の意見も聞かないでね、統廃合を進めようという姿勢っていうのはね、もう薄ら薄ら見えるわけですよ。そういう姿勢は全く納得できないし、許されないことだというふうに思います。

去年市長選挙がありましたけど、市長選挙でもね、市長さんは学校統廃合を進めるとは一言も言っていないわけですよ。公約にないことを進めようというのは、私はおかしいと思います。むしろ政策が求められる、対策が求められてるのは、大規模な学校こそもっと対策をする必要があるんじゃないかなというふうに思います。ここの学校に通っていたうちの息子ですけども、今長野県の人口 1400 人の村の子供の山村留学の指導員をやっています。ここの小学校、孫が今 5 人おりますけれども、うち 2 人が小学生なんですけれども、1 クラス 10 人です。児童数が少ないから問題なんじゃなくて、少ないからこそね、1 人 1 人に行き届いた教育が実践されてる、そういうふうに聞いています。この息子の村では教育の問題だけではなくて、若い人たちの定住だとか、Uターンや I ターンの若者への支援が手厚くやられてるっていうのが、地元の新聞なんかで紹介されていて私もびっくりしました。その村で結婚したら、半年後も婚姻が続いてれば 10 万円のお祝い金、第 1 子が生まれたら 10 万円のお祝い金、第 2 子 30 万円、第 3 子は 1 人について 50 万円の出産祝い金、学童保育は無料です。空き家を大家さんとタイアップして、自治体が修繕して貸し出す。本当に移住者が増えてる、そういう村だそうです。この平方地区でもですね、高齢化や空き家問題とか、若い世代の流出は深刻だと思います。学校なくすということよりも、若い人たちが定着して子育てできる施策の充実を図るべきじゃないか、そちらの方が本筋ではないかということを申し上げて、私の意見としたいと思います。

司 会	ありがとうございます。意見の方をまとめさせていただきますと5点ほどになるかなと思ひまして、まず通学環境への影響、安全性への懸念ということで、他の学校へ通うことによって負担が増えてしまうと、そういった形で通学距離が伸びたり、通学区域が変わることによって通学の安全性や、バスを導入したとしてもコストや先生たちの負担も増えてしまうというところがあり、そういうところが大変なのではないかというご意見が1点と、地域のコミュニティの関係のところですね。学校自体が地域の中心である、コミュニティの核であるということで、もしこの学校がなくなってしまうことで地域の衰退が起きないのかというところが心配である、実際他の自治体ですとかIターンやUターンなど施策をとって定住促進を促しているといったところが2点目、もし再編となった場合は校舎の利用はどうなるのか、学童の建物も壊してしまうのか。そういったところが3点目、4点目としては平方小の統廃合の説明会からこれまで説明会がなかったこと、最後5点目が大規模な学校も対策が必要なのではないか、この5つでよろしかったでしょうか。
参 加 者 (平方住民)	概ねそうだと思います。録音していると思うのでそれも含めて起こしてきちんと協議していただきたいです。
司 会	議事録等を後日ホームページに公開させていただきますので、その際に回答できるものについては回答させていただきます。他にご意見はございますでしょうか。
参 加 者 (中妻住民)	中妻に住んでおりますが、以前は第二団地にしまして、平方北小が学区だったということもあってこちらに参加させていただきました。質問が1つあります。なぜ小さい学校では駄目なのか。今の説明だと、切磋琢磨できないとか、多様な人間性が築かれないっていうことが大きな理由になっています。それが国の基準だと。でも国はあくまで基準であって、全然これは拘束性を持たないものですよね。切磋琢磨、人間関係というのは、子供自身が感じることです。周りのことなんかどうでも。小さいコミュニティの中でも、隣の相手に負けたくないとかね、幼なじみと一緒に帰るあの子には負けたくない。子供ってそういうところで、すごく切磋琢磨を育んでると思うんです。人間関係も、やっぱり小さい

	ところで、いろいろ話し合いすることで、それはいろんな関係を築ける、そういう力を子供って持っていると思うので、なぜ小さい学校じゃ駄目なのか、私はもう小学校１年生が１５人これすごいじゃないって逆にね、思います。こんなに目が行き届く学校って他になかなかないんですよ。だから、そういうところもやっぱり大事にしてほしいという意見です。 もう１つは、この中に１つも子供たちがどう思ってるかが出てないんですね。子供に説明はしてないんです。先生と親ですよ。でも、再編検討協議会の委員の中にこの在学している児童の親と、それから未就学児の親を含んでますよね。その参加者のお子さんたちは、いったいこの問題をどう思っているのか。素直にやっぱりここに通っている子供たちがいったいどう思ってるのかっていうことを聞きたいので、もしそういうご意見があったら教えていただきたいなと思います。
司 会	ありがとうございます。１点目のご質問としてはなぜ小さい学校ではいけないのかということで、小さい規模でも人間関係も築くことができるし、切磋琢磨もできるのではないかとということですね。国の基準については拘束性を持たないものであって、１２学級以下だから再編するのはどうなのかというところ。また、子供たちはどう思っているのか意見を確認したいということですね。再編検討協議会でも親御さんが委員としていらっしゃっているんですけど、平方北小学校の子供に直接聞いていないのか、聞いていない場合はその理由について聞きたいということで、よろしいでしょうか。
新しい学校 づくり推進 室長	まず、小さい学校ではなぜだめなのかというところでございますけど、説明の資料にございましたのと、ご意見いただいた中にも重複するところがございますが、やはりメリット、デメリットを比較した場合、デメリットの方が大きいという判断は教育委員会の方でしているというところでございます。それを踏まえまして、再編検討協議会でも同じご意見を踏まえましてというところと、あとクラスについてなんですけれども学校施設更新計画の策案の際に保護者、児童生徒等にアンケートを取ったところ、１学年２～３クラスを望む声が多かったというところも踏まえまして、適正規模校の基準を決めたという経緯がございます。

	また、子供の意見につきましては、再編検討協議会の中でも取るか取らないかという議論があったのですが、再編が決まってからですとか一定の方針が出た時点で取った方がいいという意見も出たのですが、あくまで再編するかは大人が判断して子供に責任を押し付けるような形にしたくないというご意見がございましたので、現在児童等に直接的な意見聴取というのは、再編に関しては行っておりません。
司 会	補足ですが、再編検討協議会でも子供への意見聴取については協議を行っておりまして、第4回～第5回にかけて協議しているところでございます。先ほど申し上げた通り、再編することについてどう思うかを、直接子供に聞くことによって、最終的に子供に判断を委ねるのは良くないのではないかとといったご意見をいただいたことをふまえて判断した次第でございます。ちなみに子供たちがどう思っているのかを聞きたいというのは再編なってもいいのか、悪いのかを聞いた方がいいということによろしいでしょうか。
参 加 者 (中妻住民)	再編と言っても、この学校がなくなるかどうかですね。そうすると、ここに通ってる子供にとってはすごい大問題だと思うんですよ。だから率直にそのことについて、子供たちはどう思うのかっていうこと、子供の本音を聞いてもらいたいなというふうに思ったんです。
司 会	そのような事を聞いたことによって、子供たちが心理的に影響を受けてしまうのではないかとというのが、再編検討協議会の中で出たところです。実際にどのような話があったについては再編検討協議会の議事録にございますので、ご確認いただければと思います。
参 加 者 (三井住宅住民)	さいたま市の中学校の教員だったので、前の学校再編計画のときから興味関心があったんですけど、先ほどのお話があったように、こういう会が久しぶりに開かれたということで参加させていただきました。先ほどの方もおっしゃったと思うんですけども、子供の心理学的な負担から言うと、ある学校だけがなくなって、他の学校に吸収されるっていう統廃合のやり方はあまりよくない

	いという話を聞いています。例えば、大石南小学校と平方北小学校で新しい学校名を作る。つまり、先ほどもありましたけども、ある地域だけがなくなって吸収合併されるっていうのは、受ける側としては、要するになくなった学校の生徒を引き受けた。行った側の生徒からすると、行かされたっていう残るわけですね。新しい学校を作ろうというやり方の方が、妥当ではないかと、そういう検討をされたのかというのが1点目です。 それから先ほども意見が出されていましたが、やはり基本的にはまち作りの観点がすごく大きいと思うんです。経緯の説明で、結局この平方北小や大石南小ができたのは、団地の住民が非常に急速に転入されて、子供の受け入れ場所として作った。それが今の団地の様子を見ると、急激に児童生徒がいるような家庭の人口が減少しているためにこういう事態が起きてるわけですね。結局、原市や尾山台も全く同じ状況だと思うんです。なので、例えば公団住宅に若い世代を引き受けるような政策を打って、要するに上尾市と団地が提携して若い世代を呼び込む、先ほど、長野でもそういう取り組みをされてるということだったと思うんですけれども、そういう政策なしにはとても要するに教育委員会でなかなか大変だと思うんですよね。私も学校関係者だったので、行政に強いことが言えなくて、要するにどちらかというと対応だけが迫られているというふうに思うんです。でも本来から言えば、まち作りの観点で、こういうことにならないようにちゃんと政策を打てよというふうに思った方がいいんじゃないかなと思うんですけれども、これは質問とかどういうふうに考えてるか、先ほど本当は地方自治っていうのは、やはりあのその地域住民の立場をちゃんと考えて、いろいろな政策をするべきだということなので、そういう説明なしに、しょうがないでしょうこういうふうになっちゃったんだからこうしてよっていうちょっとそういうのを考えます。 あともう1つなんですけど、私さいたま市に行って、いつも不思議だなと思うのは、さいたま市にもう何十年も1学級1クラスでそのままの学校ってあるんですよ、間宮西小と野田小とか。あれ何十年間単学級ですが、それでもこのデメリットだから統合しようという意見、また廃校にしようと思わないんです。近隣も隣の町ですからねよくご存知だと思うんですけど、結局しようと思ってもできないんですね。あそこは。なので、そのままです。逆に
--	---

	人口が急増すると、今なかなか建設が上手くいかず入札が不調らしいんですけど、3600 人の小学校をつくる。もう行政的に言えば教育委員会何考えてんだろうなと私なんか思ってるんですけども、そういう対応に教育委員会が逆に、何か責められちゃってっていうか迫られて仕方なくこれでもやっていきますみたいな声だけ大きく張り上げてるようなそういう学校計画が立てられてるんですね。やはりその辺はよく考えた方がいいと思うんです。行田市に比べればまだ上尾は。他市のこと言うとあれなんで、とにかくそういう先ほど言った質問は、まず子供の心理学的な要素で質問が 1 つです。あと 2 つは、今言ったまち作りという観点で、その辺はどう検討されてるか、おそらくこの再編検討協議会ではそういう議題は上ってないと思うんですけど、その辺はどうお考えなのかなと思います。
司 会	ありがとうございます。1 点目としては 1 つの学校がなくなって他の学校で受け入れるとなると、子供たちへの負担が大きいので、吸収という形ではなくて新しい学校を作ろうと、ちなみにそれは、校舎はそのまま、名前を変えるということですか。
参 加 者 (三井住宅住民)	いや、やり方はいろいろです。全国の例を見ればよく分かると思います。
司 会	新しく校舎を造るか、もしくは他の学校の校舎に入って名前を変えるといったやり方があると思うがそういった検討はしたのかというのが 1 点目と、2 点目はまち作りの観点からで、団地の人数が減少していく中で、市から公団へリノベーション等の提案をし、人数を増やすといったことはできないのかといったご質問でしょうか。
参 加 者 (三井住宅住民)	ごめんなさい。今のは市長の考えについてです。先ほども市長はこういうことを言っていない、なのにどんどん進めるけど、本当からいったら、市長がリードしてやるべきなんです。さっき言った行田なんか悪い方向で、もう一斉に全部なくして 1 つにまとめちゃうみたいな乱暴なことを言う市長もいるので。
司 会	市長の方で再編とかそういうことも進めていくべきということ

	ですかね。
参 加 者 (三井住宅住民)	だから、その辺の市長とのすり合わせ。結局こういう、これを決めるのは教育委員会じゃないんですよ。市長との教育委員会、総合教育会議。そこで最終決定するんですよ、議会でもなくて。総合教育会議のメンバーはどう考えてるか全く出てこない。だってそこが最終判断するんですよ、こういう住民説明会じゃなくて。
司 会	最終的な判断をするのは総合教育会議だけどもそういう話がでてきてないというのが2点目ですね。3点目としては、さいたま市の例を挙げていただきましたが、その辺りについてもきちんと検討しているのかといったご意見でよろしいでしょうか。
参 加 者 (小泉住民)	すいません。ちょっと運営の仕方について言いたいんです。今のやりとりとかも含めて、私達が意見を言ったときに司会の方が要点をまとめてくださいますよね。それは私時間が勿体ないと思うんです。1人でも多くの方が発言しやすいように答えてくださって質問してるんですから、すぐ答えてください。
司 会	先程もございましたが、論点に違いがあってはきちんとした回答ができませんので。
参 加 者 (小泉住民)	現にそこに座ってらっしゃる方は、質問を直に聞いているわけですからそれについてどうですかというふうに聞いて、答えが質問者の方と齟齬があったら、そこはそこでまた質問者との関係で訂正すればいいわけですから、司会者の方が要点をまとめていただく時間が私は勿体ないと思うんです。
新しい学校 づくり推進 室長	1点目の新しい学校、吸収合併ではなくて場所はともあれ新しい学校名にするといったイメージかと思うんですけど、今現在は学校規模の適正化ということで学校施設更新計画で単学級が5年以上続いた学校を再編検討の対象校とするという、言葉はあれですけど、課題校としては平方北小学校が課題校に該当する学校になっておりますので、これまでの再編検討協議会の中で新しい学校というようなニュアンスの協議は行っていないのが実態です。

参 加 者 (三井住宅住民)	私の質問の意味は、そういう心理学的な要素も加味して、先ほども言いましたが、子供がここだけがなくなって、疎外された感じにならないように、学校名も新しくして、新しい学校をつくるんだぞというような方向性の協議はしてないのかっていう質問です。
新しい学校 づくり推進 室長	しておりません。今現在は。 また、UR 中心のお話かと思いますが、新しい子育て世帯を受け入れる施策ということで、市としては定住促進ということで数年前から政策としては行っているところでございます。もちろん人口が増えるということは教育委員会としても大変喜ばしいことでございますけど、教育現場といたしましては単学級ではデメリットが大きいと、教育的な観点に主観を置いて今の実情を速やかに改善していきたいという思いから取り組んでいるところでございます。
参 加 者 (地頭方住民)	この問題、非常に前から関心持ってたんですが、このテキストの中に書かれてますね、子供たちの学びに望ましい学校規模と書かれてますが、これ非常にね、巧みな言い方なんです。これは誰がこれを言ってるのか。子供たちの学びに望ましい学校規模と国が言ってるっていうふうにな、皆さん説明されてますけど、国のどこの省が言っているんですか。これは総務省が言っているんですよ。総務省が、小学校の統廃合を進めるときに適正規模は 12 学級から 18 学級という言い方してるんです。具体的には文科省は一言も言ってないんですよ。子供たちの学びに望ましい学校規模、これ文科省は 12 学級から 18 学級なんて言っていますか。これは質問だけれども、今日答えなくていいです。後で教えてください。文科省はこんなこと一言も言ってないですからね。これは総務省が学校を統廃合するときに望ましいのは 12 学級から 18 学級以下というふうに言ってるんですよ。それをすり替えて子供たちの学びに望ましい学校規模ってこれは国が言ってるような印象で書かれている。これは既にこの時点で間違っている、この説明が間違ってる。これ指摘しておきます。それからですね、学校規模の問題なんだけど、これ国際基準、WHO だとか、そこで盛んに言ってるのは、小学校の規模は 100 人以下の規模だと。これはもう国際連合なんかでも前から言ってるんですよ。例えばご

	存知の方もいらっしゃるかと思うんだけど、シュタイナー教育ってあります。これはもう本当数人の子供たちを対象にして徹底的に教育をやっていくっていう、こういう考えですよ。だからWHO 含め国際基準というのは 100 人以下。これが適正規模だということを言ってるっていうこと。これをぜひ承知おきください。この基準ということで子供たちの学び望ましい学校規模っていうこんなこと言ってるけどこんなことはね、国が言ってるように間違っただけを私達に言っている、これをまず指摘しておきたいと思います。 それからですね、その次のページでクラス替えができない、これがデメリットと言ってますけれども、先ほどちょっと追加したいんだけど、私同級生が長野県出身で校長先生をやった人がいまして、こういう上尾の現状を話したら、長野県でこんな適正規模なんかやったらみんなもう潰れちゃうよと、小さい学校がいっぱいあるんですよ。先ほども言われてましたけどさいたま市でもね、人数が少なくても本当にきちんと教育を子供たちのためを持って教育をやってるところが多いんですよ。それでちょっと話が進みますが、クラス替えができないのでデメリットだと言ってますけれども、もうこれ3クラスだっていじめがいっぱい出たら全然足らないじゃないですか。毎年毎年その人をね、クラス替えすれば解決するっていうような安易な考え方だと私は思います。この問題についてはもう徹底的に話し合うということ、関係者が、それで解決していくっていうこと、クラス替えでは決して解決しないということ。実はこの学校は、ウェルビーイングな教育ということで中島晴美校長先生が素晴らしい教育を実践されましたよね。私も実はそういうことをやってらっしゃるってことで、この学校に何回か見学に来ました。中島先生ともお話をしました。その中で、先生は子供、教職員、保護者、地域の全ての幸福ウェルビーイングを大切にする学校経営したい。子供が安心して学びに挑戦できる環境作り、教職員の働き方改革と心理的安全性の向上が科学的ウェルビーイングな研究とその知見を学校運営に取り入れるという方針でね、この学校運営をされたと。 その結果どうなったか。学校が楽しいと答える児童が 98%、あと学力の向上、そして保健室利用者の減少、あと教職員の働きがいの向上、教職員が他の学校に行きたいという希望を出す人がいないと、そういうところまでね、中島先生はこの学校で実践され
--	--

	たんですよ。少人数のところですね。それで私は、さっきも言いましたように、レジュメだとかそういうのを聞いたときに対策としてクラス替えがそういうことが先生どうなんですかって聞きました。そしたら私と全く考え同じでした。クラス替えで解決はできないと。徹底的に話し合いをするべきだと、これは中島晴美先生がね、明言しましたよ。だから、ここで言ってるこのページでもクラス替えが全部または 1 部の学年でできない、これがデメリットだって嘘っぱちですよ。全然科学的根拠がないと。徹底的に話し合って解決する。じゃあ長野県もそういう少ない人数の学級数の少ないところでいじめが起こったとする、クラス替えやって解決できるんですか、できないじゃないですか。だからそれをどうするか、関係者がちゃんと話し合いを持っていくっていう。こういうことをやる必要があるということで、私はそういう小規模の学校をなくすっていうことはね、これ総務省の統廃合の立場から見れば、それは適正かもしれないけれども、子供たちの教育を考えたときにはそれは全く違う。このことはね、地域づくり、先ほども出てますけどまち作りも含めてね、本当にこれは私達の望むやり方ではないということをこれ指摘しておきたいと思います。以上です。
司 会	ありがとうございます。他にご意見ございますか。
参 加 者 (上野住民)	理由になっているデメリットのことなんですけども、この切磋琢磨っていうのをスマホ検索してみますと、仲間やライバル同士が互いに励まし合い競い合いながら、共にスキルや人間性を高めて努力し続けるという意味ですとあるんですよ。切磋琢磨というのは、競争心が主ですよ。1 年生から隣の子と切磋琢磨しながらというのは、教育の本質からも違ってると思うんですよ。やっぱり小学校 1 年生は本当に学校に来て楽しい学校、先生がいつも自分を見てくれる学校、質問をすれば何でも答えてくれる先生がいるとか、友達が 10 人で少ないかと言われたらでもそうじゃないですよ。30 人いても、私自分のこと考えても 10 人以上その人のことを深く知ってことはまず難しいですよ。友達同士の交流も本当に深い友達になるには十分、10 人いれば。人としての友達としての交流もできると思うんですよ。だから、少人数だから駄目だっていうのは、それは本当に大人や国や皆さん何とか国

	に従って学校を減らしたい、先生も減らしたい、教育の予算も減らしたいという思いを実現するためのやっぱり子供を犠牲にしてるような後付けだと思うんですね。そういう意味では小規模校だから廃校するっていうのは、全然子供の立場にも立ってないし教職員の立場にも立ってないと思うんですね。今日説明会のチラシを見ましたら、教職員の説明はたったの 25 分なんです。学校を作るのは先生と生徒ですよ。先生がたった 25 分の説明しか聞かない、聞いてない。それっておかしいと思うんですね。学校を作る先生の気持ち意見、そういうのを本当にたくさん交流しながら、やるのがいい学校を作る目的だと思うんですね。本当にこれは子供や楽しい学校にする先生たちの思いからではなくて、上から押し付けられたその国の施策だと思うし、上尾市長も 4 年前の市長選でしたよね、反対意見が多かったもんですから、凍結しますって言いましたよね。凍結するってことは、考えて違う方向性でこう決めていくということですけども、でも今やってることは、1 つ 1 つ潰していく方向ですよ。小さい学校から 1 つずつなくしていく。前の 12 校を廃校していくという方針と全く変えてないと思うんです。そういう意味でも本当にこの統廃合、平方北小をなくすことは市民として反対です。もう 1 つ質問です。この 25 分間やった教職員の職員会議でどういう意見が出たか。聞かせてください。以上です。
新しい学校 づくり推進 室長	教職員の方は説明の内容といたしましてはご説明させていただいたスライドと概ね同じものをご説明させていただきました。その場で出たご意見といたしましては、だいたいいつぐらいの時期なのか、時間的にどのくらいかかるのかというのを気にされていたので、それについてお答えして、その意見を踏まえて今回のスライドでは、ご説明の段階で暫定ではございますけど、予定をいれさせてもらったりと、改良させていただいたというところがございますので、特別反対ですとかそのようなご意見はいただいていないところでございます。
司 会	他にご意見ございますか。
参 加 者 (第二団地住民)	私、1 番上の子供が大学生で、今真ん中が高校生で、1 番下の子が平方東小の 6 年生なんですけど、平方東小は 17 年目なんです

ね。平方東小はご存知のように、1 番上の大学生の子が入ったときは全部で 1 クラスでした。2 人目のときもほとんどが 1 クラスで、3 人目の今小 6 の子が入ったぐらいに学区編成もあって 2 クラスになって、今標準に近い 11 か 12 ぐらいに確かなっていると思います。子供が通う中で、この小規模校のメリットデメリットのデメリットっていうのは、ただ実際に会話した感じからしても全く当てはまらないなっていうのを言いたいと思います。他の方も言っているようにクラス替えができないから、この人間関係の固定化とか、いじめの問題が解決できないっていうのは、これは全然違うって 1 クラスだった長男のときも問題のあるクラスはあったし、いろんないじめ的なことも含めてトラブルがありました。2 クラスになった 3 人目のときにそれがないかといえ、そんなことはありません。2 クラスで標準的な規模になったって、実際には学級崩壊的なことがあったり、いじめ的な人間関係トラブルも同じようにあります。ですからそれが 1 クラス 6 学級の小規模校のデメリットっていうのは、やっぱりおかしいというか、実態にも合わないっていうのは、ここは本当に強く言いたいと思います。そうしないと、何か小規模校が、こういうデメリットがあるんですっていうふうに市民も保護者も地域の人も考えてしまうってこと自体がミスリードっていうか、そういうふうに実際に 17 年間、平方東小に通わせて子供が行ってって感じるっていうか実態なんですよそれが。ですからここで言う、小規模校が駄目で適正規模の学校がいいっていう理由のデメリットは、やっぱり理由にならないっていうのは、1 つ強く言いたいと思います。

もう 1 つ質問も兼ねてなんですけど、この再編協議会が設置される前も含めて、その後も含めて、保護者に平方北小、要するに適正規模にしてほしいや、1 クラスで困るとか、ぜひ 2 クラス以上にしてほしいっていうようなそういうことの声が実際出たのかどうか、何かアンケートとかで聞いてこの 1 クラスで困ってる、変えて欲しいっていう声を聞いたことがあるのかっていうのを、再編協議会設置前も含めて教えていただきたいんですね。なぜかという、息子が小学校に入ってサッカー少年団に入って、平方北小もグラウンドで使わせていただいていたんですけど、その平方北小の保護者さんも結構いたんですけども、1 度もそういう声を聞いたことがないんですよ。平方北小が 1 クラスだから困っ

	てるとか、もっと多クラスにして切磋琢磨してほしいとか、中にはいるのかもしれませんが、それが多数だったとは到底思えないんですよ。ですから、そういう声をこの間この再編協議会を設置する前と後も含めてどれだけ聞いてきてるのかっていう、できれば地域の方の意見もどれだけ聞いてるのかっていうのを聞かせてください。
新しい学校 づくり推進 室長	ご質問の件なんですけれども、平方北小学校の保護者等に対して再編検討協議会をやるにあたりアンケート調査を実施しております。詳細についてはホームページ等で公開させていただいておりますが、現在の1学年1クラスで、メリットを感じるか、デメリットを感じるかというご質問で、基本的には特にメリットを感じるという方に6割程度の方が回答していたかと記憶しております。その反面といいますか、その後の同じ設問の中に学校規模適正化にした場合のメリット、期待する効果という設問も同じく設けておまして、その中で、学校再編で得られるメリットは少ない、特にないというご回答された方は保護者で10%、教員で8%程度となっており、期待することとしてはクラス替えができること、人間関係に配慮したクラス編成ができるが、保護者ですと6割、教員ですと約9割の方がご回答するなど何かしら期待している面もあるというようなアンケート結果を得ているところでございます。
司 会	他にご意見はございますでしょうか。
参 加 者 (第二団地住民)	私前県議もしていたので、ちょうど昨日国会にも行ってきてこの問題を国ともやり取りをしてきたのでそういうこともお伝えしながら質問していきたいと思います。 今日は平方北小の再編という名の廃校についての決定をぜひ撤回してほしいくて、私は今日この場にきました。今夫が目の前にいるので私そういう子供たちを1クラスで見えてきて、先生たちが全部の子供たちわかるんですよ名前。こんな素晴らしい学校はないなと。私とっても嬉しかったです。平方東小に入れて。だから学級はとっても大事だなと思うんですけれども。この間何度か再編検討協議会を傍聴させていただいて、その中で再編検討協議委員の皆さんから統廃合ありきではないですよ。何度も何度もそ

	ういう質問出るんですよ。大規模どうするんですか、これだって適正規模じゃないじゃないですか、こういうことも出た。でもそれはほとんど聞かれないまま、ああそうですねって。再編検討協議会委員の責任に結局されてしまいますよね、この結論を出した。私これ本当におかしいというふうに思ってるんですが、なぜこの結論を出す前に、むしろ再編検討協議会を作る前に、地域への説明、保護者への説明、そして何よりも影響を受ける子供たちへの説明をしなかったのかということをもまず1つ伺います。それから、いくつかデメリットの話もあったんですけども、私すぐそのファミマに行ったときに、子供に声かけられたんです。こういう仕事もしてるので、はって見つけて、「僕たちの学校なくなるんですか」ってずいぶん前ですよ。小学校6年生の子だったので多分もう卒業してると思いますが。「どうして?」「なくされるんですかね。」「なくすことはないよ。小学校実際はどんなの。何年生?」「6年生です。すごく丁寧に教えてもらってるから、すごくいいので。」本当私この声を聞いていないってすごく瑕疵があると思ってます。子供たちに聞いてなんぼ思ったり、子供たちにこの決定の権限がないと思ってることが、私は大人の傲慢だなと思います。子供の権利条約があります。批准してます。子供たちに影響あるものは全て子供たちの意見を聞いて、なるほど子供たちにとってはわからなかったけどこういうメリットがあるんだなっていうことも分かると思います。そしてこのデメリット、大人が作っているフィクションのこれデメリット、子供たちはどう思うのでしょうか。いやいいよ、これでいいよって多分その小学校6年生の子は言ったでしょうね。私は大人が勝手に考えたデメリットを押しつけることこそまずい、だからこそ子供たちの心理的負担っていうふうに言ったんじゃないでしょうか、ショックを受けさせるって。私これおかしいと思います。聞きたいのがもう2つ目ですが、学童が今どこも満杯です。平方北小学校の子供たちが、他の学校に行くことで、学童への対応、つまり他の施設にいっぱい影響が出るんですが、学童についてはどう思っているかが1つ。 それから、今後ますます部分的によっては学校が満杯マンモス校に上尾もなると思います。イオンの向かい側に大きなマンションができると伺っています。もしかしたら学校作らなきゃいけないかもしれないということも含めて非常に不安になるんですけれ
--	--

	ども、大規模への対応をどうするのか伺います。 それから避難所としての機能がここにはあります。学校開放も行っています。そこへの影響についてどう考えているのかを伺います。これが4つ目ですよね。 それから3ヶ所4ヶ所、子供たちを転校させるという中身ですけれども、子供たちへの心理的な影響をどう考えてるかも伺います。 今日説明があって、5年がかりでこれやるということなので、私はね、この廃校をやめるなら今だと思います。ぜひ、廃校ありきではなくこれを撤回して、この小規模の良さを今からでも活かしていくという考えについて伺います。以上です。
新しい学校 づくり推進 室長	学校再編の撤回というところでございますけれども、私共の基本計画の策定から実施計画、再編検討協議会と進んできておりまして、教育委員会の考えといたしましてはご説明させていただいている再編に係る方向性（素案）のものを進めていく所存ではございます。その中身につきましては今回様々なご意見をいただく場としてこの機会を設けておりますので、そのようなご意見があったというのは教育委員会なり、審査する場にはご意見として当然提言はさせていただきます。 また、学童につきましては統廃合によって仮に平方北小がなくなる場合であって、他の学校に行く場合につきましても当然学校だけでなく学童も1つのパッケージとしてご用意しなければ、するのが市の責任と考えておりますので、そちらにつきましては十分対応して参りたいと考えているところでございます。同様に避難所につきましても重複の話になってしまいますけれども、防災部局との協議検討も踏まえて確保していくことになると思います。
司 会	他にご質問等ございますでしょうか。
参 加 者 (第二団地住民)	ごめんなさいね。2つぐらいしかなかったので、1、2でしょ。3つ目が大規模化への対応、それから4つ目が避難所、それから学校開放でこれかなり使われているんですよね。そこへの対応をどう考えてるのか。それから子供たちが転校することへの心理的影響、さらに5年間かかるというところで立ち止まるべき、これは

新しい学校 づくり推進 室長	答えましたね。最初にね、結果についてね、ちょっとこれじゃ全然答えになってないですけど、意見を聞いて、考え直すということをしてほしいということが私の要望です。 失礼しました。まず大規模化への対応ですね。今大石小学校ですと 26 学級ですとか 27 学級という規模になっているところがございますけど、こちらの学校につきましても児童の減少に伴って令和 12 年度くらいには 20 学級 21 学級の準適正規模校となっていくことが想定されています。こちらの推移ですとか実際大規模校での問題を検討しながらということになってしまいますが、児童の減少を見据えて進めていければと考えております。先ほど上尾小学校の大規模集合住宅の件ですけれども、今まさに私共も懸念というか動向を注視しているところがございますので、具体的なところは、まだ今後となってしまうんですけども、注視しながら何年くらいに何人くらい入って来るのかをまずは把握しながら対応の方を具体的に考えていくところでございます。 学校開放の件ですが、使っていただいているのはありがたいというか有効に使っていただいているかと思うんですけど、あくまで子供たちの教育のところの観点の主観に置いておりますので、子供たち優先というところで考えているところでございます。あと今後再編に伴って転校する児童がいるかもしれないというところですが、他市の事例ですと事前に相手校との交流を設けるという事例もございますので、その辺を研究して心理的負担を少しでも軽減できればと考えているところでございます。 避難所の方は、もしもこの学校がなくなっても建物自体はすぐ使えなくなるというところではないというところと、今後どのように活用していくか、跡地利用にも関わってくるかと思うんですけど、具体的には防災部局と協議しながら土地なり現建物の使用を図って地域の皆様の不安を少しでも解消できるような方向で進めていきたいと考えております。
司 会	他にご質問等ございますでしょうか。
参 加 者 (丸山団地住民)	平方北小学校再編検討協議会の委員でもありました。今までお話を聞いていてすごく思ったのは、すごく応援をされている気持ちになりますけど、本当に責任の一端を感じてます。再編検討協議

会の委員として加わっておりましたので、こういう今までのお話を聞いて、小規模の学校についてこういう意見もあるんだっていうことを全然知らない状態で参加をしていましたので、アンケートの中では、本当に小規模の学校についてのメリットっていうこともたくさん述べられていたので、そういうこともあるんじゃないんですかっていう程度のことしか私言えなかったんですけども、本当にいろんな地区のことですとか、そういった情報が全然足りない状態でお話をさせていただいていたかなっていうふうにも思いますし、さっきこの2番ですかね、平方北小学校再編検討協議会の中で私たち子供たちの学びに望ましい学校規模が協議されたかっていうと、協議はされてないんじゃないかなと思っています。アンケート結果っていうのを説明されて、メリット、デメリットっていうのがある中で在校生の保護者からも小規模といっても限度があるよっていうようなお話もいただいたりとか、そういう中で、そういうこともあるのかなあという形なので、いろんな豊かな話し合いというのは、再編協議会の中ではされていなかったなっていうふうに感じています。ちょっと私ずっとグチグチ言わせていただいていたんですけども、全体としての決を出していくっていう中で、そこに私は異をずっと唱えるってことはなく、責任の一端を感じているような状態です。ただお話の中で、適正数っていうのをずっと続けていけば、ここら辺に学校はもうなくなりますよねっていうことは申し上げたと思います。子供の数、なかなか増えないですし、これで適正数ってずっとやっていけば、その町にいったいこの学校数ってどうなっちゃうんだろうっていうそういう気持ちはすごくありました。あともう1つは、もう2回目ぐらいの再編協議会的时候から申し上げてたんですけども、なんで教育委員会だけなのかなあっていうのは常に疑問でした。やっぱり地域の資源を語り合うのに、教育委員会だけっておかしいですよ。私途中からバスっていうことがね、選べるのであれば丸山団地の子供たちが、例えば平方小だったりとか、この酷暑の中歩いていくってことを考えたら低学年の子供たちが本当に死んじゃうよって思ってまして、小敷谷の方からバスっていう意見が出たときに、バスっていうのがあるのであれば、考え直してもいいのかなあと、例えば丸山団地このままだったら、子育て世代が住まない地域になっちゃうな。高齢化がどんどん進んじゃうな。そうなったときに、この地区はバスが

	あるから大丈夫なんですってというようなことがあるのであれば、それだったら考えなくもないかなっていうそんなような気持ちでした。そのときにバスっていう条件が通るのであれば考えてもいいかなっていうことを申し上げたときに、ちょっとそれができないって言ったときには、また後戻りしてもいいんじゃないかっていう意見を実は個別にいただいたりとかしまして。それでこれは進んでいったかなと思ってますその結果っていうか再編検討協議会についてのその他のところで、夏場などの児童の安全性を考えた通学バスについては、学校再編の検討とは切り離し、市全体の小・中学校で検討することが望ましいっていうふうに書かれているので、私この場には、それを検討できるような機関っていうか、そういう方がいらっしゃってるのかなあっていうちょっとそういう期待もあって伺いました。学校のことを話すのに、教育委員会だけって責任重すぎませんか。市の財産のことを語るんだったら、もっと市のいろんな方が来るべきなんじゃないのかなって思うんですけど、いかがでしょうか。
新しい学校 づくり推進 室長	現状といたしましては学校のことということで、子供たちの学びに観点を置いているということで教育委員会のメンバーのみというところが実情でございます。今後資産として、もしも跡地ですとかそういう話になりましたら避難所の関係部署ですとか等々交えての検討が当然必要になるかと思っております。現段階では教育委員会のみとなっております。
参 加 者 (丸山団地住民)	そうなりますとそういう方も含めての説明会が更にあるということではよろしいのでしょうか。教育委員会だけでなく他の機関の方も含めて説明会がまた更にあるというふうに考えてよろしいのでしょうか。
新しい学校 づくり推進 室長	今時点での統廃合につきましてはある、ないという明言はできないんですが、例えば跡地利用ですとか避難所の関係ですとかになれば避難所の防災部局のものに出席を求める可能性はあるのかなと考えております。今現在明言というかある、ないといった明確な回答はできないところです。
参 加 者	今の答弁聞いていて跡地跡地って言っているんだけど、跡地って

(地頭方住民)	いうことはこれを壊すっていう前提での発言じゃないですか。これ壊しちゃったらどうすんのこれ、避難所もできないしさ。例えばね、他のところでやってるところはこの学校の施設をね、社会教育施設に回すとかね、そうやって地域の人たちと一緒にやっていうことをやってるところが多いわけですよ。その先から跡地跡地って言っちゃってるとなんかもう決まってるのかもう全部壊しちゃうのかっていうのはさ、そういう印象になっちゃうんだよね。それちょっと発言ちょっと注意した方がいいし、本当にその発言の通りなんであればね、これまたこの地域全体の問題にもなってきますよ。そこちょっと指摘しておきます。
新しい学校 づくり推進 室長	すみません。おっしゃる通り跡地というのは飛躍というか施設の有効活用も含めてというところでございます。
参 加 者 (平方住民)	廃校が前提ってことではないですか。もう説明会やらないっていうのは。そういうのがうまくないんじゃないですか、このやり方そのものがね、検討協議会で決めたものを押しつけるっていうのは、非常にまずいやり方だというふうに思いますよ。今の答弁聞いても廃校ありきっていうふうにしか受け取れないですよ。本当に残念な会だと思いますよ。
新しい学校 づくり推進 室長	今回方針の素案というところで意見聴取というところで場を設けさせていただきました。先ほどの説明にもあったかと思いますが、今回いただいたご意見をふまえて、また通学区域審議会での協議を終えましたら、再編案を作成させていただく予定です。再編案ができましたら、また説明会の方はさせていただきます。
参 加 者 (上野住民)	午前中出て、最後に要望というか意見なんですけど、再編案の説明会ってありますよね。ようやくできたということで、きちんとね、やってほしいと思います。というのは今日聞いて、答えてもらえてないのも結構あるんですよ。教育委員会以外の部署でね、やっぱり答えてほしいようなこともいっぱいあるんですよ。ですから、今日いっぱい出た意見も参考にね、スタッフを増やして、答えられるようなそういうね、上尾市の全体のことを答えられるような体制で、私市長さんに出てほしいですよ。市長さんどうい

	う考えでこれやっているんですか。私午前中に平方北小がなくなることによって単学級の学校がもしできたら、そっちの方も増やしますよって該当、要するに平方小は今4学年が単学級ですからね。これ全部単学級になったら平方小はもう該当になりますよっていう、そういう話をされたので、いや、これは本当に大変なことだという、どんどん小さい学校なくなっちゃう、そういう計画が変わらない限り広がるんですよ、どんどん。そういう心配もあります。それからもう1つ大石南中の再編検討協議会、これ始める前に、先ほども意見ありましたが地域説明会やってからやってくださいよ。そこの20人ぐらいで決めちゃって。はい決まりましたじゃ困りますから、きちんとした地域説明会をやることを要望します。必ずやってください。それは推進室の方でできると思いますのでよろしくお願いします。
司 会	他にご意見ございますか。
参 加 者 (第二団地住民)	先ほど質問で1個漏れていたものともう1個質問したいんですけども、漏れてたのはなぜ再編検討協議会の前に地域説明会を行わなかったのかというところ。保護者や子供たち、地域への説明をしっかり今やってるような形で、やったらですね、これだけ意見が出るわけですよ。これ、なぜしなかったのか。これから大石南の方もやるようですけれども、全くそういうことを地域にも保護者にも子供に聞かずにやるっていうのは、非常に市のやり方として瑕疵があると思うので、なぜやらなかったのか1点と、もう1点は今、この学級規模だから学級数が云々言ってるけれども、少人数学級を進めていけば、それこそ40人いたら2クラスになりますよ。どんどん学級数むしろを増やさなきゃいけない状況になったときに、おそらく教室が足りないという状況が絶対に生まれると思います。プレハブを作ることにもなるかもしれません。だから少人数学級を進めていく上での学級数が、実際に増えていくということを念頭に置きながら、こういう計画を考えてるのかどうか伺います。
新しい学校 づくり推進 室長	1点目の再編検討協議会をやる前に説明会の方がしばらく行われていなかったというご質問かと思いますが、基本計画を作成する段階で各説明会を行わせていただき、その基本計画の中で基準

司 会	として小学校ですと単学級が5年以上続くことが見込まれる場合という定義を定めましたので、それに基づきまして再編検討協議会を行い、再編検討協議会の意見を吸い上げたうえでこの場をという考えで進めていったということをございまして、逆に再編検討協議会をする前ですとご説明する内容が少ないという状況があったと判断していたということをございます。 少人数学級によって学校の教室数が不足してしまうのではないかというご懸念につきましては、検討させていただいて適切に対応して参りたいと考えているところでございます。 それではお時間となりましたので質疑応答を終了させていただきます。
------------	---